

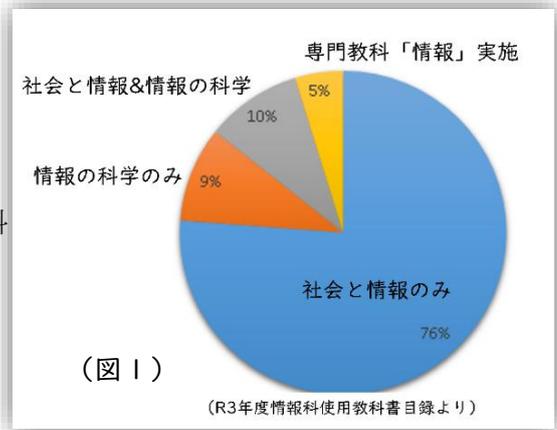
2025年大学入試共通テスト「情報」について

情報 I 教育研究会

富山県立大門高等学校教諭 中西 純

1. 情報 I 研究会について

高教研情報部会内に位置づけられた研究会。2025 年以降の大学入学共通テストにて情報 I が出題されることが決まったが、各学校から心配の声が挙がっていた。R3 年度情報科使用教科書目録を基に調査すると、「社会と情報」のみ実施校が 76% だった。また、「情報の科学」実施校が一部の学校に限られている実態から、特にプログラミング教育について避けられてきたように考えられるため、大学入学共通テストを見据えた研究および、事例集作成を進めている。



2. 参加者

平田大地 (魚津・滑川)

徳道隆仁 (富山東・富山北部)

青野友紀 (高岡高等支援・伏木)

福田匡孝 (にいかわ総合支援・入善)

樋掛雅則 (富山)

猪又健太 (富山)

中西純 (大門・高岡)

鹿野利春 (京都精華大学教授・

前国立教育政策研究所教育課程調査官)

盛本茂 (総合教育センター科学情報部長)

吉田壮志 (県立学校課指導主事)

林誠一 (富山大学教授)

成瀬喜則 (富山大学教職実践開発研究科長)

3. 富山県内の情報科の現状 (北日本新聞 2022 年 7 月 24 日記事より抜粋)

県教育委員会によると、県内の公立高校で情報を担当する教員は 22 年度 4 月時点で 41 人。多くはプログラミングの指導経験がなく、学校現場に戸惑いが広がる。

免許所有 56.1% (図 2)

免許外担当 43.9%



(図 2)

4. 事例集作成について

各単元の進め方や、学習用教材を事例集として準備している。情報科を含め、複数の教科を受け持つことになる方々や、大学入学共通テストに向けた授業の充実を目的としている。

富山県内各学校に届け、先生方からの感想や、事例集を使った生徒の反応を知らせてもらいたい。

情報部会

事例集の一部を掲載する。

表示されているプログラムは、配列の整列（選択法）である。

大学入学共通テストサンプル問題の第2問、問3に該当し、11月9日に公表された試行問題にも配列に関する問題が出題された。（図3）および生徒に示した解説（図4）

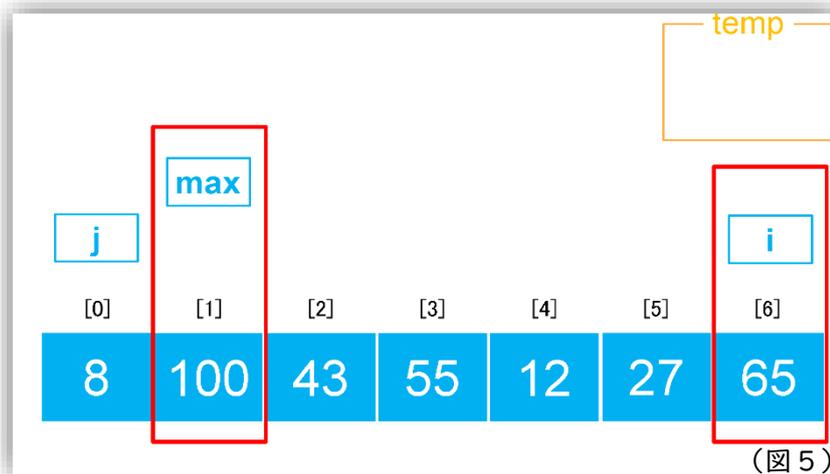
```
▶ a=[8, 100, 43, 55, 12, 27, 65];
  for i in range(len(a)-1, -1, -1):
    max=i
    for j in range(i-1, -1, -1):
      if a[j] < a[max]:
        max=j
    temp = a[max]
    a[max]= a[i]
    a[i] = temp
  print(a)
```

(図3)

```
▶ a=[8, 100, 43, 55, 12, 27, 65];
  for i in range(len(a)-1, -1, -1):
    max=i  最大值設定
    for j in range(i-1, -1, -1):
      if a[j] < a[max]:
        max=j
    temp = a[max]
    a[max]= a[i]  値の入れ替え
    a[i] = temp
  print(a)
```

(図4)

最大值更新



生徒に示した値の入れ替えをイメージするためのトレース用プレゼン資料（図5）

```
▶ kouka = [10, 50, 100, 500];
  maisu = [ 0, 0, 0, 0];
  otsuri = 680
  nokori = otsuri
  for i in range(3, -1, -1):
    maisu[i] = int(otsuri / kouka[i])
    otsuri = nokori % kouka[i]
  print(maisu)
```

試作問題にて出題されたお釣りに関するプログラミングの問題を少し簡単に表した問題（穴埋め問題やトレース等を想定）

5. 終わりに

情報科教員の不足の解消はまだ時間がかかると考えられるため、複数教科を担当される方の負担軽減や、大学入学共通テストを意識した考查問題の充実が求められる。